

春日井ロータリークラブ 2016～2017年度 WEEKLY REPORT



クラブテーマ

～地域で期待されるロータリアンになろう～

会長：伊藤 純 例会日：金曜日 12:30～13:30
 副会長：社本 太郎 例会場：ホテルプラザ勝川
 副会長：宅間 秀順 事務局：春日井市鳥居松町5-45
 幹事：成瀬 浩康 TEL：(0568) 81-8498
 会報委員長：加藤 宗生 FAX：(0568) 82-0265
 E-mail：Ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp

自然の恵みを
未来の子供達へ

ロータリーの森

本日のプログラム

- ・点鐘 司会 朽本 正樹君 伊藤 純君
- ・ROTARY SONG 「奉仕の理想」
- ・今月の歌 「てんとう虫のサンバ」
- ・ビジター紹介
- ・食事・歓談
- ・委員会報告
- ・会長挨拶 伊藤 純君
- ・IDM
- ・幹事報告 成瀬 浩康君 伊藤 純君
- ・点鐘

今月の歌

てんとうむし虫のサンバ
 あなたと私が 夢の国
 森の小さな教会で 結婚式をあげました
 照れてるあなたに 虫たちが
 くちづけせよと はやしたて
 そっとあなたは くれました
 赤青黄色の 衣裳をつけた
 てんとう虫が しゃしゃり出て
 サンバにあわせて 踊りだす
 愛する2人に 鳥たちも
 赤いリボンの 花かごと
 愛のくちづけ くれました

先週の記録

幹事報告

幹事 成瀬 浩康君

次週予告

第1回理事役員会
 全員協議会・クラブフォーラム
 第1回クラブ協議会

2017年6月23日(金)2327回(6月第4例会)

*6月23日：IDM 川由 18時

◎例会変更のお知らせ

岩 倉	7月11日(火) 12:30～
RC	例会場都合の為 岩倉市総合体育文化センター

出席報告

委員長 大橋 省吾君

会員 58名	欠席 25名	出席率 56.9%
先々週の修正出席	欠席 5名	出席率 91.3%

ニコボックス報告

委員長 速水 敬志君

- 一年間ありがとうございました。伊藤 純君
- ありがとうございました。 志水ひろみ君
- 卓話します。 梅村 守君
- RCへ入会させて頂きありがとうございます。 野田 勇君
- 誕生祝いを頂く喜びで 加藤久仁明君
- 工場増築完成しました。 宅間 秀順君
- いつもありがとうございます。 大橋 省吾君
- ロータリーの森の下草刈りが終わりました。緑一色の森になりました。お出かけください。 早川 八郎君
- お花、ありがとうございました。新美 治男君
- 祝福ありがとうございます。野田君・梅村君の卓話を聞ける喜びで。 小川 長君
- 22日のゴルフ最後まで回れるよう頑張ります。 山田 治君
- 交流戦勝ち越しを願って 青山 博徳君
- お二人の卓話を聞く喜びで。 近藤 太門君
- 梅村君・野田君の卓話を聞ける喜びで 下田 育雄君 古屋 義夫君 岡嶋 良樹君
- 岡田 義邦君 北 健司君 成瀬 浩康君
- 足立 治夫君 場々大刀雄君 朽本 正樹君

ロータリー親睦活動月間

例会予定	6月30日(金) 休会定款6-1	7月7日(金) 第1回理事役員会 第1回クラブ協議会 全員協議会・クラブフォーラム	7月14日(金) 祝福 クラブフォーラム	7月17日(月) 7月21日(金)変更 IAC年次大会 9:30～ 春日井市民会館
------	---------------------	--	----------------------------	--

ホームページ：<http://www.kasugai-rc.jp>

E-mail：ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp

屋嘉比良夫君 社本 太郎君 加藤 宗生君
風岡 保広君 川瀬 治通君 大原 泰昭君
大畑 一久君 小柳出和文君 貴田 永克君
和田 了司君 速水 敬志君
○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

卓話

野田 勇君

自己紹介

皆様、こんにちは。今年の5月より風岡保広様のご紹介により、伝統ある春日井RCに入会させていただきました。東海東京証券 春日井支店長の野田勇と申します。本日は私の自己紹介ということで貴重なお時間を頂戴いたしますが、どうぞよろしく願いいたします。私は、オイルショック真只中の昭和48年2月27日に埼玉県浦和市で4人兄弟の長男として生を受けました。私の家庭は、母子家庭ということもありかなり質素な生活だったようです。“ようです”というもおかしな話なのですが、例えばエアコンや車がなかったり、旅行や外食に行ったことがなかったりと一般的な家庭と比較すると質素だったのですが、そのように感じたことはなく、今思うとそれは全て母親のおかげでした。母は明るく優しい人で、家庭はいつも明るく、兄弟も仲が良かったのでお金はなくても幸せになれるという感覚はこのころの母の影響が大きかったと思います。私はそれを引き継いで、子供たちに「幸せは“なる”というより“感じる”ものなんだよ。仲間や家族を大切に思い、思われること」と教えています。仲間を大切にするというきっかけになったことの一つが学生当時やっていたバレーボールでした。今このような体をしておりますので、「何か格闘技でもやってたの？」とよく聞かれますが、中・高とも男子バレー部に所属しておりました。チームプレーのなかで仲間の大切さを学び、キャンプテンをさせていただいておりましたが6年間、部活を辞めた人はおりませんでした。後程お話しさせていただきますが、仲間を大切に思い、辞めさせないということを今でも大事に思っております。そんな私が現在の妻となる“幸子”と巡り合ったのは高校一年生の夏、15歳の時でした。清楚で優しく当時と今もほとんど変わらず、変わり果てた姿の私に対して「いつもお仕事ご苦労様。有難う」と毎日、言ってくれます。そんな私たちですが、22歳の時めでたく結婚をしまして、聖来（セイラ）と虹那（ニイナ）という女の子2人に恵まれました。皆様もそうだと思いますが、最初の子供の名前は真剣に考え、長女は将来、海外でも活躍できるようにセイラと名付け、二人目は男の子が欲しかったので男の子の名前しか考えておらず、次女には内緒ですが2月7日に生まれたので、ニイナと

なりました。お話は前後しますが、高校卒業後、早く母を楽にしてあげたいという思いもあり、大学へは進学せず、当時の丸万証券に内部勤務として就職いたしました。その後10年以上、内部勤務に従事し頑張っていた私に人生の転機が訪れました。私が29歳の時、岐阜県多治見支店へ営業職として辞令が出たのです。まず、はじめに「頑張っているのに何故？」という思いでした。極度のあがり症で人とのコミュニケーションが苦手だった私が、営業？しかも世間一般で聞く営業とは、ノルマがありキツイ・厳しいという印象しかなく落ち込んだこと覚えています。結果として、その出来事のおかげで、私の人生は大きく変わりました。人生の先輩で成功者のお客様たちとの出会い、営業現場での上司や仲間との出会いが、私の考え方や価値観を大きく変えてくれたのです。とはいえ、そのように感謝できるまでの道のりは平坦ではなく、大学を卒業して営業職として就職した仲間に比べ、30歳近くで営業に出た私との間には相当な差があり、その遅れを挽回すべく必死に頑張りました。同じ多治見支店の尊敬できる先輩たち（実は前任の加藤もその一人）のまねをすることから始め、営業に関する書物を読みあさりしました。前任の加藤と私は不思議な縁があり、約60店舗以上ある全国の支店の中、多治見支店で一緒になり、春日井支店長として引き継ぎをすることにもなったのです。今は当社の歴史の中で2人だけの高卒の支店長として切磋琢磨しております。

お話を戻しまして、営業員時代の私は、他の営業員との競争であったために、自分とお客様のことばかり考えており、どうしたらお客様にこっちを向いていただけるかということを考えていました。そして最終的にたどり着いた結論は、「相場に勝って、お客様に利益をとっていただくこと。」これに尽きるのです。せっかくお時間をいただいているので、そんな私がいま最も有望だと考えている投資テーマを過去と未来に分けてご紹介させていただきます。まず過去というテーマですが、投資の世界に“あの時こうしていれば”はタブーなのですが、例えば日本の高度経済成長の時代に日経平均を買っていたらどうだったでしょう？1970年の日経平均は2000円でしたが、2年後に倍になり、1989年のバブル絶頂には38915円と20倍になり、今でも10倍になっているのです。1970年当時の日本と様々な共通点がある国がベトナムです。本日の日経新聞にも未開の巨大市場と掲載されておりましたが、人口と人口ピラミッドの分布・経済規模等、共通点がいろいろありますが、なかでも15歳から30歳までの人口が突出して多く、まさに日本という団塊の世代の方々が日本の高度経済成長を支えたように、これから結婚して家を買って車を買ってという人口ボーナス

ス期に入る国なのです。その国の株式市場が割安か割高かを測る指標の一つにバフェット指数があります。これは50年で資産を15000倍にしたことで有名なバフェットさんが使う指数でその国の株式市場の時価総額をGDPで割った数字が100%になるというものです。今の日本のGDPと株式市場の時価総額はおよそ500兆でイーブン(100%)になります。他の先進国も同様に経済の成熟とともに100%に近づいていくという理論なのですが、1970年当時の日本の時価総額は16兆に対し、GDPは約100兆円でしたので16%ということになります。100%が基本なわけですから経済規模に対して株式市場の時価総額が小さいということは、株が割安という判断になります。

その観点からすると、ベトナムは現在、時価総額が7兆円に対しGDPは22兆あるので、約32%ということになり、バフェット指数からすると株式相場が3倍に成りうるという計算が成り立ちます。これ以上お話しすると勧誘になってしまいそうなので次に参ります。もう一つの未来のテーマですが、皆様もご存じのとおり自動運転の技術革新がすぐ目の前に迫っております。具体的には2020年から2025年までに、レベル5の完全自動化になるといわれております。つまり3年~8年の間には自動運転の自動車が市販化されるということになります。それを可能にしたのが大容量の高速通信技術や大容量のメモリー、人工知能の発達です。私たちは歴史的な産業革命の真っただ中にいるのです。投資対象はIT企業や半導体、人工知能・インフラ・ネットセキュリティーと多岐にわたります。競争も激化し、勝ち組・負け組に選別が進みますが、その中でもオンリーワンの技術を持っている企業に投資をすればよいのです。具体的には音声認識技術と人工知能に関してはそれぞれほぼ1社が独占しております。面白そうじゃないかという方は、お気軽にお声掛けください。最後となりますが先ほど営業員時代に、自分とお客様のことだけ考えていたとお話ししましたが、管理職になってそれも大きく変わりました。それは、離職率の高い業種の中で部下を辞めさせないということと、部下の成績を上げるということに関して、少しでも役に立てるよう私の全精力を注いでおり、部下本人やそのご家族の人生を預かる立場として、私がかつての仲間や上司、お客様から受けた恩を今度はお返しして広めていく番だと思っております。その考え方については、ロータリアンとしても同じことが言えるのではないかと思います。つまり、地域で期待されるロータリアンになると同時に、それを広めていくことが非常に重要だと思うのでこれから日々精進してまいります。どうぞご指導のほどよろしく願いいたします。本日は有難うございました。

卓話

梅村 守君

皆様あらためましてこんにちは。本日はこのような貴重な機会を頂きましてありがとうございます。せっかくの卓話の機会を頂き、いろいろ考えたのですが、前回の卓話から2年経ち、まだまだぼくのこと知らない人も多いと思いますので、もう一度、自己紹介ということでお話をさせていただきます。今、ぼくは、土地家屋調査士という仕事をしています。土地家屋調査士とは不動産の表示に関する登記や測量を依頼者に代わって法務局や市役所に申請する仕事です。詳しくは今日お渡しした資料を呼んでいただけたらと思います。しかし親は左官屋で職人だったし、子どもの頃からなりたかったわけでもありませんでした。そんな普通の家に生れた僕がなぜ土地家屋調査士になりそしてロータリーに入会することができたのか？良い機会なので過去を振り返りお話ししたいと思います。子どものころは、学校から帰ってくると、勉強もしないで当時大人気だったファミコンや広場で野球など毎日遊んでばかりでした。親に勉強しなさいというさくいわれた事はあまりなかったと記憶しています。そんな遊んでばかりの学生生活も終わり高校を卒業すると山崎パンに就職しました。理由は営業などの人と話をするのは苦手で黙々と作業していたほうがいいのと、入社試験が面接だけという安易な理由でした。大企業の山崎パンだけあって北は東北、南は九州の学校から来ていることもあって全員強制で寮生活でした。18歳で初めて親元を離れての暮らしでしたので初日の夜、部屋でそのころ良く聞いていた浜田省吾の歌を聞いて、寂しくて泣いていました。実際働いてみると厳しい現実がまっていました。僕は洋菓子1課に配属されました。当時ヒットしていた、まるごとバナナという商品を作っている部署でした。はじめの1ヶ月くらいは定時で上がらせてもらったのですが、1ヶ月過ぎたくらいから、石橋班長の班に入ってくれと言われ、そこからは地獄の生活が続きました。朝は6時に出勤し、夕方6時まで働くともう一斑が交代するという2交代制の勤務体制です。昼勤で一週間働いて、夜勤で一週間働いて交代という、体が慣れてきたころにまた勤務体制が変わるかなり過酷な労働でした。当時はまだ若かったですがそれでもきつかったです。一生働く会社ではないなと思いました。そんな時に高校の同級生が転職をし、その会社がまだ社員募集しているから「お前もくるか」と誘われ5年弱働いた山崎パンを退職し、次にワーク設計という測量会社に入社しました。山崎パンで学んだことは社会の厳しさや変則的な勤務体制で鍛えられたのか今でも、早起きが苦にならなくなったことです。そして次に入社したワーク設計は測量会社でした。今までとまったく畑違いの仕事でわからない事ば

かりでしたが先輩たちは何も教えてくれず見て盗めと言う感じでした。何をすればいいかわからず、最初のうちは良く怒鳴られたり、手をだされたりしましたが、友達が誘ってくれた会社だったので我慢しました。だけど測量の仕事は自分にあっているかなと思いました。理由は毎日違う現場にいけるし、現場だけではなく事務所で図面を作ったりするのは自分に合っていると思いました。3年くらい働いたころ、別の測量会社のOさんが土地家屋調査士に合格して独立したということであいつに来ました。この時初めて土地家屋調査士という資格を知りました。そしてOさんの仕事に僕が手伝いに行く機会がありいろいろ話を聞きいていくうちに僕も独立したいと言う気持ちが出てきました。あんな先輩たちの下でずっと働くのがいやだったというのがありますが、そのためには資格が必要だということがわかり資格の勉強を始めました。このころ結婚して、子供もでき普通、安定志向の人なら、今の会社でがんばろうと思うのかも知れませんが、僕はそんな考えはまったくなく土地家屋調査士に合格して独立すると妻に宣言し、30歳のとき土地家屋調査士を目指しました。34歳の時4回目で試験に合格しましたが、この期間が僕は人生で一番勉強したのではないかとはいくくらい勉強しました。学生時代ほとんど勉強しなかった僕が、独立するという目標があったのでここまで勉強できたんだと思います。厳しい先輩そしてOさんとの出会いがあったからこそ独立したいという思いになったんだと思います。そしていよいよ平成22年4月に梅村測量登記事務所を開業しました。初めは自宅マンションの一室からスタートです。しかし世の中はそんなに甘くありませんでした。普通は開業前にある程度見込み客を作っておくと思いますが、僕はまったくの顧客0からのスタートなので、当然仕事はまったくなく、最初の1ヶ月は同業の手伝いに数日行って売上7万円だったのは今でも忘れません。必死に苦手な飛込営業などもしました。いろんな異業種交流会などに参加していましたが、そんなとき春日井青年会議所の人と出会いました。どんな団体かも知らないし入会金10万円と高額でしたので、最初絶対入りませんと言っていたのですが、最後は河村不動産に呼ばれて行くと、そこで河村哲也さんにはじめて会いました。五人くらいに囲まれて最終的には入会しました。今思えばここがターニングポイントだった気がします。この時、青年会議所の誘いを断って入っていなければ、今ここで卓話することもないし、もしかすると仕事も続けられなかったかもしれません。青年会議所での一番の思いでは最終年度に会員拡大委員長をやらせていただいたことです。前の年も委員長をやっていたのですが、もう1回やってくれないかと今ロータ

リーで一緒の小柳出くんから連絡があり、コメダで話そうということで、はじめは断るつもりで会いにいったのですが、頭では大変だし家族にも迷惑かけると思うけど、心が仲間が誰もやる人がなくて困っているのに見捨てるのかと葛藤し、結局引き受けました。とても大変な一年でした、小柳出くんにもかなり迷惑かけましたが、今ではいい思い出になり、そして大勢の新入会員に見送られて卒業することもできました。青年会議所で学んだことは頼まれた断らないことだと思いました。頼まれて、断るのは簡単だけど、とりあえず引き受けてから、できる方法を考えればいいやということを僕は学ばせてもらいました。それは仕事でも同じだと思います。青年会議所卒業と同時に河村さんと芝田さんに食事に誘われてロータリーに入会させていただいて現在にいたっております。こんなぼくでも、多くの人との出会いを大切に、関わることで、自分の成長につながってここまでやれたのだと思います。あとは運も良かったんだと思います。これからも自分をみがいてロータリーにふさわしい男になれるようがんばりますのでよろしくお祈りします。ご清聴ありがとうございました。

卓話 野田 勇君



卓話 梅村 守

